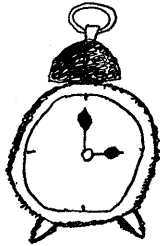


作曲のヒント

(二)

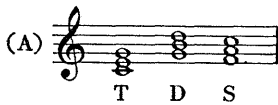


外山友子

T、D、S について

殺虫剤 DDT の話ではございません。前号でドミソ、ソシレ、ファラドの三つの和音が最も重要な位置にあり最も多く使われる和音であることを書きました。ドの上に作ったドミソの三和音を、主和音またはトニック (Tonic)、ソの上に作った三和音ソシレを、属和音またはドミナント (Dominant)、ファの上に作った三和音ファラドを、下属和音または、サブドミナント (Subdominant) と言いますのでそれぞれその頭をとつて、T、D、S と言います。これから始終この T、D、S が出てきますから、よくおぼえておいて下さい。

(A) の T が、(B) ではドが上に転回してミソドとなっています。更に (C) ではミも上に転回してソドミになっていますが、ミソドもソドミ



もTであることに変わりはなく、D、Sについても同じことが言えます。(A)のように転回していない形の和音を基本位置といい、(B)と(C)のように転回している形を転回位置といい、その和音を転回和音といえます。これはT、D、Sに限らずどんな和音にも言えます。では次に、このT、D、Sを耳できいてみましょう。

この曲は実際は二長調でお弾きになつていられるでしょうが、話をわかり易くするためにハ長調にしました。この曲なら、もうどんなにピアノの苦手の先生でも、伴奏を御自分でつけて弾いていらつしやると思います。

別に楽譜を見なくとも、自然に、T、D、Sの音をつけていらつしやるはずです。今、この曲を弾きながら、左手をこらして下さい。

改めて意識してみると、始めから終りまで、このT、D、Sの和音を、基本位置や転回位置、あるいは分散和音ドソミソとか、シンソソ、ドラファラなどを使っていることがおわかりでしょう。ここで15、16小節目を注意してみましょう。

「むすんでひらいて」の場合、このララソーからまた、最初にもどつて、繰り返し繰り返し子どもを遊ばせますが、ここでもう終わろうかと思ひながらも、ララソーと来ると、また、ミミレドドと始めたくなり、ついダラダラとあきるまでやるといふことがなげにしもあらずのようです。これは、ララソーというのは、S、S、Tの和音で終っていますので、完全に終止という感じを作っていないからです。それよりも8小節目の、レドレミドのところの方が、余程曲の終止にふさわしいところです。ですからこの曲は、1—16小節のあとに、再び小節、1—8小節が来て、レドレミドで終るのがほんとうです。これの原曲は、哲学者ジャン・ジャック・ルッソーですが、いろいろ変奏曲になつて歌詞がついていますが、やはりレドレミドのところ



で終わっています。このレドレミドの伴奏はD、D、Tになっていますが、先程のS、S、Tよりも、DDTの方が終止感があるということには、大事な理由があるのです。

今、S—Tと、D—Tをくらべてみましょう。(前頁下段図)

DからTへいきますと、一番下の音(低音、バスといいますが、シからドへいっています。

上のabcはみなD—Tの形ですが、どれを見ても、シからドへの動きが見られます。aでは低音が、b

では上声が、cでは中声が、それぞれシードとなっています。このシの音は、常に主音ドへ上行しようとする欲求を持っている音なので、このシすなわち、長音階の第七度の音を、上向導音と申します。この導音も極めて大事な音ですからよく御記憶下さい。S—Tにはこの導音から主音への動きがないのです。D—Tの形を、それぞれa、b、cとピアノで弾いてみますとよくわかりますが、おさまる音へおさまったという安定感を強く感じます。ですからこのD—Tという終り方を正格終止と言いい、先程のS—Tと終るのを変格終止

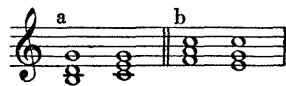
と言います。

勿論、S—Tで終わってもかまいませんが、D—Tの方が遙かに多く用いられ、また遙かに強い終止感、安定感があるわけです。

このD—T、S—Tを今、上のaのように、ト長調で考えることも出来ます。Dのシレソは、ト長調のミソドとなり、Tになります。

同様にTは、ト長調のファラド、つまりSになります。そしてbの方は、へ

長調のドミソと、シレソ、つまりT、Dと考えることも出来るわけです。ですから、aだけ弾いた時はハ長調であるか、ト長調であるか決定出来ませんし、bだけでは、ハ長調であるかへ長調であるか決定することは出来ません。ではこのS、D、Tを全部弾いてみましょう。このように、三つ揃えばもうハ長調以外の調は考えられませんから、完全にハ長調であるということが確立します。このように和声的に調が確立される形を、終止形といいます。



ハ長調では D T S T
ト長調では T S T D

